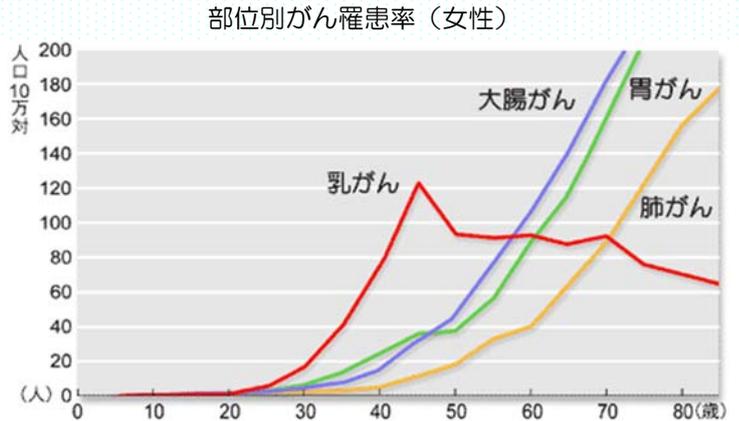
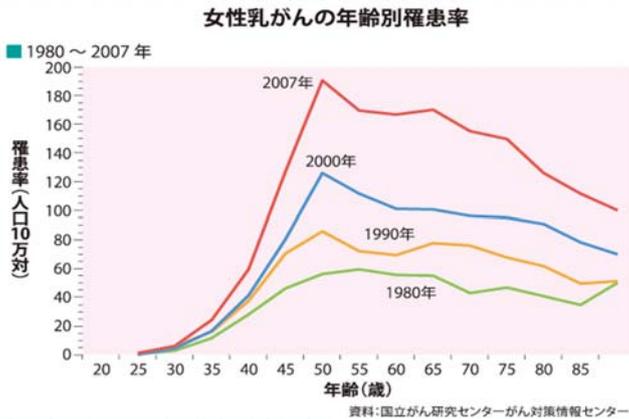


# マンモグラフィーについて

検診マンモグラフィー読影認定医  
副院長 小澤 昭人

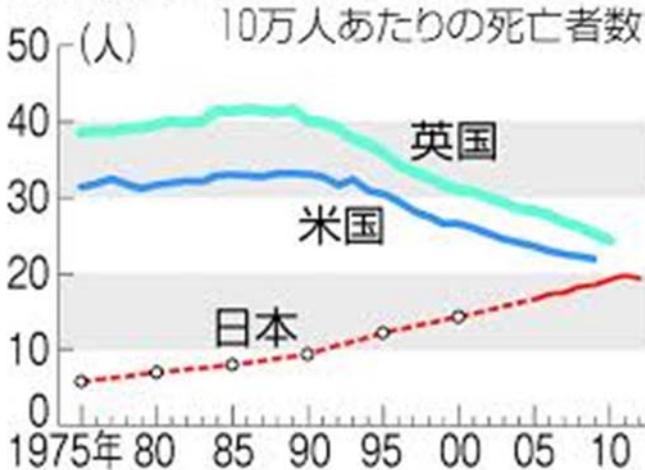
## ◆乳がんは増えているの？

乳がんは他の部位のがんと異なり比較的若い年代から発症し、40歳代から急に多くなり、60歳代で再び多くなり、一生のうち12人の女性のうち1人は乳がんになると言われています。  
(アメリカでは8人に1人が乳がんになると言われています。)



## ◆増え続ける乳がん死亡率！

### 日米英の乳がん死亡率の推移



40歳代から急に増える乳がん死亡率は50歳、60歳代と増え続けます。家庭においても、社会においても非常に重要なポジションにいる年代での死亡を何とか減らさなければなりません。



## ◆乳がんの診断

### 【視触診の乳がん検診では駄目なの？】

以前は、日本の乳がん検診では、医師による視触診が中心でした。しかし、2004年に厚生労働省から、「マンモグラフィーを原則とした乳がん検診」を推進するように提言が出されました。これを受けて、自治体の乳がん検診でも、40歳以上の女性に対してマンモグラフィーを導入した乳がん検診が普及しつつあります。

視触診の検診での乳がん発見率より、マンモグラフィー検診での乳がん発見率の方が、2ないし3倍高いとされています。

また、マンモグラフィー検診で見つかる乳がんは、触診で見つかる数年前の段階で発見可能なことが多いとされています。

### 【マンモグラフィーって何？】

マンモグラフィーとは、乳房に対して行うレントゲン撮影のことをいいます。マンモグラフィーは、触診では診断できない小さな腫瘍や、しこりとして触れないうちの石灰化した微細な乳がんの発見に威力を発揮する検査法で、乳がんの早期発見に欠かすことのできないものです。

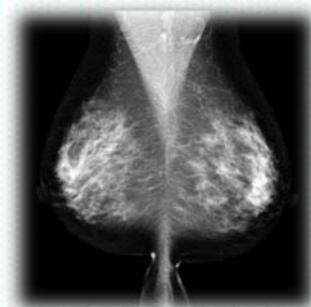


マンモグラフィー読影認定医の  
小澤医師による判定



女性の放射線技師2名が  
検査を行っています。

デジタルマンモグラフィー装置  
平成27年10月更新導入



### 【マンモグラフィーの撮影は？】

乳房をはさみながら圧迫して、上下方向、左右斜め方向からレントゲン撮影します。乳房を圧迫しながら薄く均等に広げることによって、少ないレントゲンの量で乳房の中をより鮮明に見ることができます。（この圧迫が、マンモグラフィーは痛いと言われる所以だと思えます。）

現時点では、残念ながら乳がんを予防する手段は確立していません。欧米では、マンモグラフィー検診を導入後、乳がんの死亡率が減少に転じました。日本では、マンモグラフィー検診を導入しましたが、検診受診率が低いのが現状です。マンモグラフィーを受けていただき、早い段階で乳がんが見つかり、治療で完治される方が増えることを期待します。

### ◆乳がん検診はどのくらいの間隔で受ければいいのか？

40歳以上の女性は2年に一度受ければよいとされていますが、血縁に乳がんの治療中、既往の方がおられる場合には、1年ごとに受けられた方がよいとされています。

### 健康管理センターからのお知らせ

当院では健康診断・人間ドックに合わせ、マンモグラフィーのオプション検査をお申込み頂けます。女性の技師による撮影、マンモグラフィー読影認定医による判定を行い、健診結果と共に結果をお知らせします。

昨年度は122名の方がマンモグラフィー検査を行いました。

料金：5,500円

協会けんぽ加入者で今年度40歳以上の偶数年齢の方は補助が受けられます。

40～48歳の偶数年：自己負担 1,655円

50歳以上の偶数年：自己負担 1,066円

※加入保険によって補助額が変わりますのでおたずね下さい。

また、乳腺超音波検査も料金4,000円で実施しております。20～30歳代の方にはこちらの検査をおすすめいたします。

マンモグラフィーと乳腺超音波検査をあわせて実施することも可能です。

【お問い合わせ先】 健康管理センター：TEL0268-68-2511（直通）

※長和町の乳がん検診対象の方は、上記内容とは異なります。

詳しくは、長和町健康づくり係へお問い合わせください。